

産地戦略

実施期間 令和6～6年度

実施主体 福島県会津農林事務所農業振興普及部
 都道府県 福島県
 対象地域 会津若松市北会津町
 対象品目 リンゴ（露地栽培）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

会津若松市北会津町は、盆地特有の気候条件から水稻を中心とした経営体が多いが、果樹栽培にも適しており、リンゴが約30ha栽培されている。近年は、担い手の高齢化等による労力不足が深刻化している。また、薬剤抵抗性を発現したハダニ類の多発生が例年問題となっている。そこで、ハダニ類が例年多発している北会津町のリンゴ園地において、天敵製剤を用いた生物的防除、自動草刈り機による除草労力の軽減など、本地域で取組みの少ない先進的な技術の普及・定着により、みどりの食料システム戦略の推進を地域内で支援する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		摘果						収穫・選果			剪定		
		防除											
		草刈（乗用草刈機）											
技術名		殺ダニ剤防除（3～5回）											
		草刈（乗用草刈機）											

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		摘果						収穫・選果			剪定		
		防除											
		草刈（乗用草刈機）											
技術名		天敵製剤設置											
		下草の高刈り											
		自動草刈機＋太陽光パネル											

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	77	77	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	7	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	5	20	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	9	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
省力	乗用草刈り機による草刈	▶ 自動草刈り機による草刈	除草管理時間の削減 作業負荷低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	殺ダニ剤散布回数（回）	5	▶ 2	
省力	20 a 当たりの作業時間（時間）	4.5	▶ 0	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

当事業で検証した結果やこれに基づいたマニュアル・栽培暦を作成し、リンゴ生産者に広く周知する。

関係者の役割

関係者名	福島県（会津農林事務所 農業振興普及部）	会津若松市	会津よつば 農業協同組合	福島県農業総合研究センター 果樹研究所
役割	・マニュアルの周知、改訂 ・現地検討会の開催（2回）	・認定農業者等へのチラシによる 周知	・果樹部会講習会等における推 進チラシ等の配布	・技術指導 ・現地調査協力

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R10）（ha）	備考
ロボモアKRONOS MR-301H	園地内で常時継続的に稼働 させて、雑草を一定の長さに 管理することができ、除草作 業に費やす負担を軽減でき る。また、刈高を調整するこ とで、土着天敵を生かした環境 にやさしい栽培が可能とな	9	

その他